

育親中学校ブロックの新たな学校づくりについて

令和4年9月1日発行 Vol.2

育親中学校ブロックにおける新たな義務教育学校の校名最終候補や義務教育学校の開校案を令和4年亀岡市議会定例会9月議会に提案しましたのでお知らせします。

「亀岡市立育親学園」を新たな義務教育学校の校名候補として選定

新たな義務教育学校の校名募集を行い、「育親中学校ブロックにおける義務教育学校の開校に向けた調整会議」において校名候補の絞り込みを経て、教育委員会において『亀岡市立育親学園』を最終校名候補として選定しました。たくさんの御応募・御協力をいただきありがとうございました。

- 募集期間 令和4年6月25日～7月20日
- 応募総数 224点（児童生徒130点 地域住民・学校関係者94点）
- 選定基準 住民の理想や願いを大切にしたもの
住民がわかりやすく、親しみやすいもの
地域の特色を表したもの
新たな義務教育学校として開校していく想いを込めたもの

【『育親』という校名に込められた主な想い】

- ・子どもを育み、絆を大切にという名前の由来がコンセプトに適していると思う。
- ・「育親」には和親、親睦、親しみを育むという印象や意味があるように感じ、子どもたちには親しみのある人に育ってもらい、良い人間関係が築ける人生を歩んでほしい。
- ・西部地区4町の子どもたちみんなが学んだ校名を残し、「育親」という文字に込められた開校時の想いや願いを引き継いでいきたい。

新たな義務教育学校の開校に向けた最終案を提案

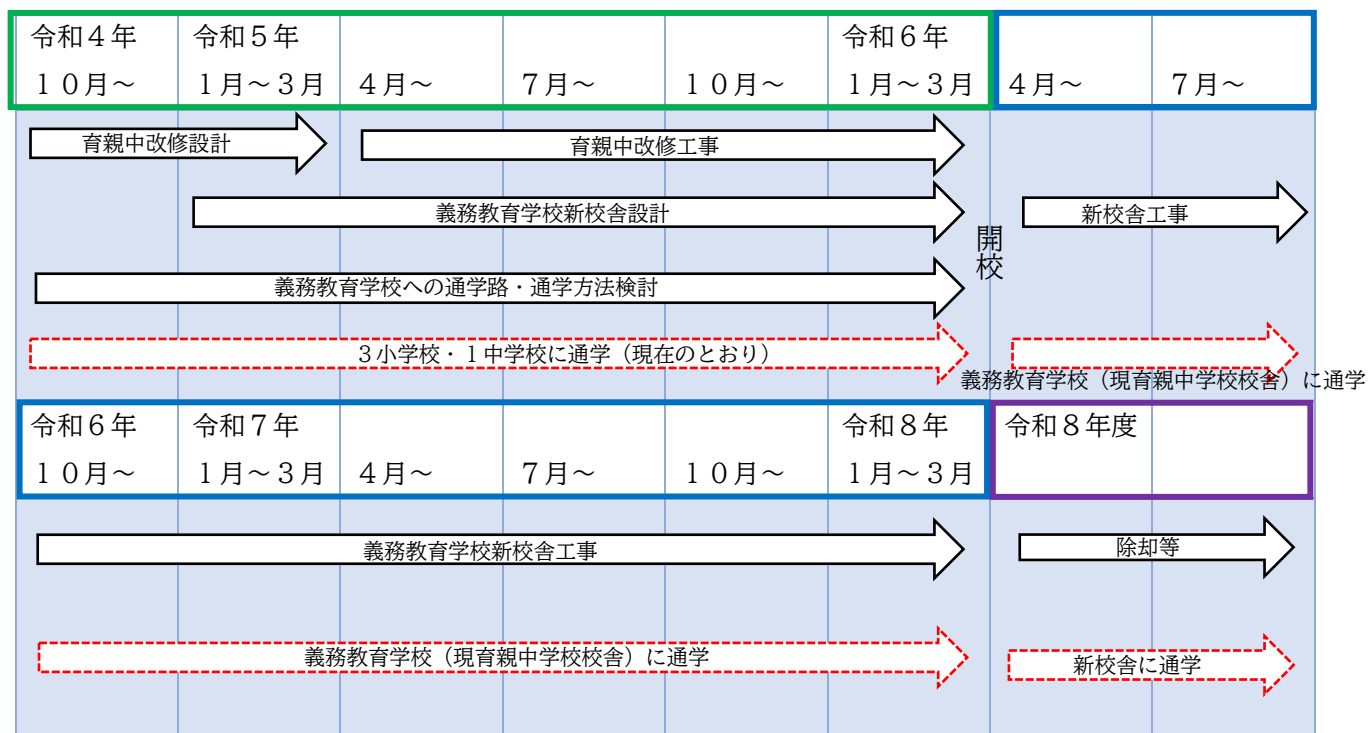
新たな義務教育学校は、施設一体型の義務教育学校として令和6年4月の開校を目指しています。「育親学園」という校名候補にも込められた児童生徒や地域住民の想いや新たな学校に対する期待感も考慮し、また、開校当初から現在の育親中学校の敷地を利用するメリット等を令和4年8月開催の教育委員会において総合的に検討した結果、これまでに提案してきた令和6年4月から現本梅小学校校舎とそこに設置する仮校舎を使用して義務教育学校を開校する案から現育親中学校校舎を使用し開校する案を最終案とし取組を進めていくこととしています。

【最終案のメリット】

- ・敷地面積が広く学習環境への影響が少なく、後期課程の生徒にとっても変化が小さく負担が小さくなります。
- ・児童生徒のイメージに沿った義務教育学校の開校を迎えることができます。
- ・新校舎工事を間近で見ながら学校生活を送ることで新たな義務教育学校への期待感、愛着が強まり貴重な学習機会になります。
- ・通学方法の変更が1回のみとなり児童生徒及び保護者の負担軽減となります。

【校舎整備スケジュール案】

- ・ 現育親中学校校舎を使用し令和6年4月に義務教育学校を開校します。
- ・ 新校舎は現育親中学校グラウンドに建設します。
- ・ 新校舎が完成次第、新校舎へ移動し学習を継続・発展させます。
- ・ 新校舎へ移動後に現育親中学校校舎を除却しグラウンド等を整備します。



◆◆◆ まとめ ◆◆◆

子どもたちにとってより良い学びの環境を整えるという点において、多くの児童生徒や地域住民が「育親」で「4つの学校がひとつになる」や「みんなが一緒に学ぶ」というイメージを抱いていることを校名募集により実感いたしました。課題となる工事中における安全面や学習面への影響については徹底した対策を行い、児童生徒が新たな学校に期待を膨らませて生活でき、愛着の持てる環境を整えるとともに保護者の皆様の負担軽減にも努めてまいります。

また、決定後には義務教育学校の開校に向け、通学方法や校歌・校章など様々な事項について「育親中学校ブロックにおける義務教育学校の開校に向けた調整会議」の各グループで御意見をいただきます。

より良い教育環境の継続と発展に向け、自治会やPTAと連携し、学校とともに義務教育学校のメリットを活かしたより魅力あふれる学校づくりに取り組めますので、引き続き皆さまの御理解・御協力のほどお願いいたします。

なお、今回お知らせしました校名最終候補や義務教育学校の最終案は、今後、議会の議決をもって決定となります。



お問い合わせはこちらへ
 亀岡市教育委員会 教育総務課 0771-25-5052